

導入へ高いハードル

採算性 ■ 事業者・行政間調整 ■ 市民の支援

次世代型路面電車（LRT）を走らせようという水戸市内の有志が、勉強会を発足させた。LRTは、乗降口が低く電気で走るため高齢者と環境にやさしい公共交通として、導入を求める市民運動が全国各地に広がっている。ただ、交通事業者と行政との調整や広い市民の理解など課題も多く、導入実現のハードルは高いのが現実のようだ。

水戸のLRT

有志、実現目指し勉強会



「これが実現すれば素晴らしいまちになると思う」。昨年暮れ、水戸市内の繁華街のある店舗で、商業者を中心としたLRTの勉強会が行われた。主催したのは昨年11月発足した「高齢者と環境にやさしい交通まちづくりを考える会」。

参加した商業者はLRTを賞賛しながらも「まずは市民が支援してくれないと…。それ

に、行政が導入に踏み切る理屈を考えていかないとだめ」と、付け加えることを忘れなかった。同会世話人の医師、早船徳子さん(49)は「市民がLRTについて正しい知識を持ってもらうよう、ミニ勉強会をいろいろな所で行っていききたい」と話した。

LRTは既に国レベルで推進が位置付けられている。地方公共団体が温暖化対策計画を

つくる際の参考情報としてその利点が記述されており、補助制度ができています。国会議員の間にも超党派による推進連盟が組織されている。

昨年12月5日、東京大学でLRTによるまちづくりを目指す全国大会が行われた。推進運動を展開する都市は70。新たに水戸が仲間に加わり、一覧表が会場に配布された。

課題にどう対応するのか、多くの市民の理解を得られるのか。勉強会の今後の出方が注目される。(藤崎和則)

しかし、実現したのは富山市のみ。栃木県宇都宮市では、行政主導で導入計画が進んだにもかかわらず現在、足踏み状態。意見交換会で市民団体代表は、その原因として「政争の具にされた」「バス運行事業者の反対」などを挙げた。

水戸市では加藤浩一市長が同月の市議会一般質問でLRTについて触れ、利点を認めながらも「採算性やほかの交通事業者との調整など課題も多い」と慎重な姿勢を示した。

課題にどう対応するのか、多くの市民の理解を得られるのか。勉強会の今後の出方が注目される。(藤崎和則)